

※この学習指導案の形式は、令和6年度の形式であり、令和7年度の学習指導案作成の形式については、「令和7年度研修の手引き」を参考にする。

高等部第*学年 自立活動学習指導案

日時：令和6年*月*日 14:10～14:30

場所：高等部*年*組 教室

指導者：柴田 直毅

1 題材名

「仕事の効率化を目指して」

2 題材について

(1) 対象となる生徒の実態

本生徒は、高等部*年の準ずる教育の課程に所属する男子生徒で、高等部*年生から本校に在籍している。二分脊椎、先天性による両下肢機能障害、疾病によるぼうこう又は直腸機能障害、その他の排泄障害により、移動は車いす、排泄は定時で自己導尿を行っている。本生徒は、教師からの言葉かけを素直に受け入れ、課題の改善に取り組んだり、学習に粘り強く取り組んだりすることができる。また、卒業後はグループホームで在宅事務の仕事を行うことを目指している。

認知面に関しては、決められた順序や動作を繰り返すことで、定着を図ることが得意である。一方で、整理整頓が苦手であるとともに、言葉だけの指示を理解することが難しいため、視覚的な補助や端的な説明、具体的な指導が必要である。また、課題の提出や依頼を忘れることが多く、注意力を持続することが苦手である。書字に関しては、「て」「と」「や」「か」などの字体を区別できないことがあり、パソコンの入力の間違いも見られる。さらに、物事を順序立てて取り組むことが苦手なため、効率よく正確に行うことが難しい。

視線入力を用いた活動では、決まった内容であれば適切に取り組むことができる。しかし、情報量が多くなると、集中力を持続することが難しく、一度に複数の情報を処理することが課題である。また、ビジョントレーニングの「線なぞり」や「線めいろ」では、情報量が多く、視線を追うことが難しかったと本生徒が感想を述べた。さらに、TMT-B テストのように情報量が多い課題では、時間内に作業を終えることができず、情報処理能力の低さが見られた。

(2) 題材設定の理由

本生徒は、注意力を持続したり、自己管理能力や自己調整能力が低く、課題に対する計画的な取り組みができていなかったりすることが課題である。在宅事務を目指す本生徒にとって、業務を自律的に管理し、集中力をもって取り組む能力が必要であると考え。

ビジョントレーニングを通して得られる視覚的処理能力や注意力の持続、マルチタスク能力の向上は、本生徒が在宅事務で求められる能力と関連している。特に、情報の整理や処理、視覚的な認識力の強化は、在宅事務の業務を効率的に行う上で大切である。ビジョントレーニングを通じて、視機能の向上だけではなく、自己管理能力、自己調整能力を高めることができるため、本生徒にとって適切な指導・支援であると考え。

ビジョントレーニングで育んだ能力は、学校生活や日常生活、社会生活においても役立つ場面が多い。在宅事務では、自己管理能力や自己調整能力が必要であるため、これらの能力を育むことで、業務の効率や正確さが高まり、社会生活でも自主的・主体的に行動できるようになる。だからこそ、本生徒にとって必要な能力を身に付けるために、ビジョントレーニングを題材に設定した。

これらの理由から、ビジョントレーニングを題材として設定し、本生徒が抱えている課題を改善・克服しつつ、自己の成長を促していく。また、継続して取り組むことができるように、RPDCA サイクルを活用し、自主的・主体的に行えるようにしていく。

本題材では特別支援学校学習指導要領自立活動の6区分27項目のうち、「1 健康の保持(4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること」「2 心理的な安定(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること」「4 環境の把握(4)感覚を統合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること」「5 身体の動き(4)身体の移動能力に関すること(5)作業に必要な遂行に関すること」を踏まえ、「4環境の把握」に重点を置き、支援・指導に当たる。

(3) 指導目標とリストアップされた項目及び具体的な指導内容

長期目標	・自分自身の目の見え方や苦手な部分を把握したり、実践と分析を繰り返したりし、課題解決能力を育むことができる。
短期目標	・自分自身の苦手な目の動かし方や偏りを知ることができる。 <1-(4)><2-(3)> ・自分でできるビジョントレーニングを選択し、実施することができる。 <1-(4)>、<4-(4)>、<5-(4)>、<5-(5)> ・視線入力の結果をもとに、自分に合ったトレーニングの仕方を探ることができる。 <1-(4)>、<2-(3)>、<4-(4)>、<5-(4)>

項目リストアップ	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(4) 障害の障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること	(3) 障害による学習又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること		(4) 感覚を統合的に活用した周囲の状況についての把握把握と状況に応じた行動に関すること	(4) 身体の移動能力に関すること (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	
指導内容	・チェックリストや簡単なテストを行い、自分自身の苦手や偏りを把握できるようにする。		・ビジョントレーニングに取り組み、目と手の協応を高めることができるようにする。		・視線入力でビジョントレーニングを行う前と、行った後で成果を実感できるように、振り返りを行い、課題解決能力を育めるようにする。	

(4) 指導にあたって

指導にあたっては、生徒の困難さを解消することを念頭に置きながら、生徒自身の自主性・自発性を大切に主に4つの活動を行っていく。

1つ目は、チェックリストで、視覚機能テストを実施する。チェックシートの結果をもとに、自分自身の日常生活の中で、自身の困り感を振り返り、自分自身の苦手や偏りを把握できるようにしていく。

2つ目は、チェックリストや眼球運動テストをもとに、自分でできるビジョントレーニングを設定する。生徒の実態に応じたプリントを提示したり、タブレット端末の「ナンバータッチ」「THE 眼球トレーニング～見るだけ動体視力アップ～」のアプリを活用したり、「後出しジャンケン」「まねっこゲーム」をペアで取り組んだり、活動内容を生徒自身で選択できるようにする。また、1週間ごとに自立活動のスケジュール表の作成を促し、自分自身で計画立てて実施できるようにしていく。

3つ目は、視線入力ソフトのアイムーブメントトレーニングやデジリハを活用する。視線入力の結果をもとに、始め眼球運動の分析を同時に行う。そして徐々に生徒自身で考え、自分に合ったビジョントレーニングを設定し、実施できるような時間を設定したり、教材の提示を必要に応じて行ったりする。

4つ目は、1か月に1回、TMT-Bテストを実施する。生徒の成長を可視化できるように時間を記録し、生徒自身のビジョントレーニングの内容を振り返る時間を設け、評価・改善を繰り返すよう促し、生徒自身の課題解決能力を育めるようにする。継続して取り組むことで、生徒自身が成長を感じ、卒業後も手軽なビジョントレーニングに取り組めるように指導・支援をしていく。

3 指導計画

※1日10分間、1週間での活動を1時間として換算

次	時間	ねらい	指導内容
一	3	・視覚チェックシートを使い、自分の苦手な部分や癖を把握することができる。 ・視線入力の結果をもとに、自分自身の眼球運動を分析することができる。 ・TMT-Bテストを行い、かかった時間を記録することができる。	・チェックシートを使ったり、眼球運動の簡単なテストを行ったりする。 ・取り組んでいる様子の動画を視聴し、自己分析を行う。
二	2	・自分でできるビジョントレーニングを選択し、実施することができる。 ・実施したビジョントレーニングの実施内容と結果を記録することができる。	・教師と相談する時間を設定し、分析結果を照らし合わせる。 ・タブレット端末に活動内容と結果を記録し、活動を振り返る。
三	3	・視線入力の結果をもとに、自分に合ったトレーニングの仕方を探ることができる。 ・TMT-Bテストを行い、自分自身の成長を実感することができる。 ・課題解決に向けた意欲を育むことができる。	・TMT-Bテストを基に、ビジョントレーニングを行った前と行った後を比較する。 ・RPDCAサイクルを活用し、評価、改善を繰り返す。

4 本時の指導

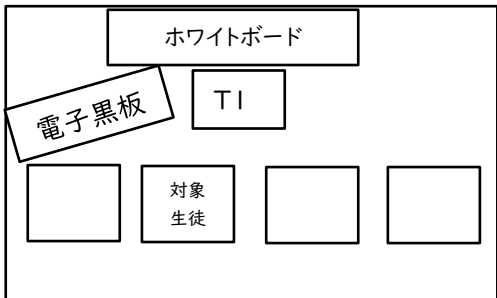
(1)目標

自分で選択したビジョントレーニングの理由を説明することができる。

(2)教材・教具

電子黒板、タブレット端末、チェックシート、ビジョントレーニングのプリント

(3)展開 ※形態の表記は、全体：全、個別：個

形態 時間	主な学習内容	教師の手立て
全 1	1 はじめの挨拶をする。  2 学習の流れを確認する。 (1) 学習を知る。 (2) 目標を確認する。 (3) 教師の説明を聞く。	・授業への切り替えができるように、顔を上げて目線を教師に向けるよう言葉をかける。 ・活動の見通しをもつことができるように、ホワイトボードに学習内容を提示し、順に読み上げる。 ・目標への意識付けができるように、ホワイトボードに目標を提示する。

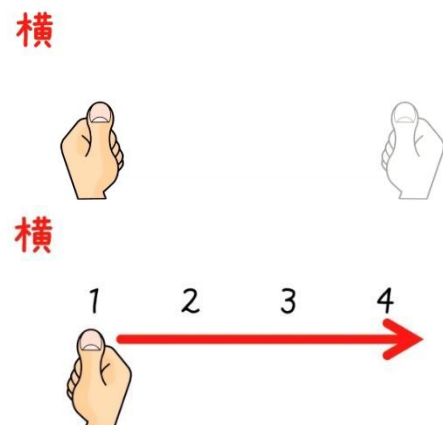
(目標)
根拠をもってビジョントレーニングに取り組もう。

- (学習内容)
- ①準備運動(全体)
 - ②チェックシートと TMT-B の結果の確認
 - ③個別学習
 - ④振り返り

3 準備運動をする。

(1)動画に合わせて指を動かしながら目のストレッチを行う。(3分程度)

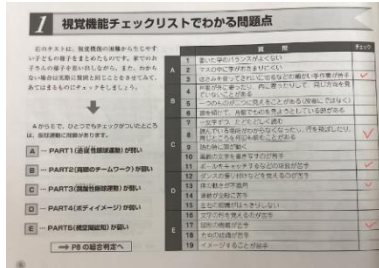
(課題のイメージ)



(2)・チェックシートと視線入力の結果の確認をする。

・今日の目標を発表する。

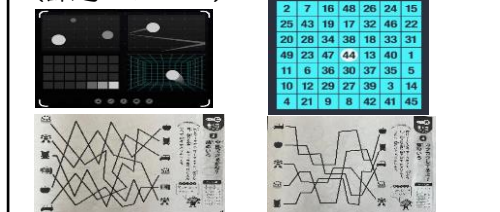
(生徒が実際に実施したチェックシート)



(3)ビジョントレーニングを行う。

- ・タブレット端末のアプリを活用する。
- ・プリントでの学習をする。
- ・自分で選択したビジョントレーニングを実施する。

(課題のイメージ)



・教師の説明を理解しやすいように、内容を端的に伝える。

- ・動画を見ながら指を動かすことができるように、電子黒板の向きを生徒と確認しながら調節する。
- ・安全に学習に取り組むことができるように、隣の友達と距離を取って準備運動に取り組むよう言葉をかける。
- ・準備運動の効果を得ることができるように、動画と同じ指の動きが、効率が良いことを伝える。

- ・チェックシートの確認する箇所が分かるように、電子黒板に確認する場所を示しながら説明する。
- ・すぐに確認ができるように、紙媒体で用意し、手元に置けるようにする。

チェックシートと TMT-B の結果を照らし合わせ、実施するビジョントレーニングを選択している。

<1-(4)>、2-(3)、4-(4)、5-(4)(5)>

- ・時間を意識してビジョントレーニングに取り組むことができるように、電子黒板に時間を提示する。
- ・見通しをもってトレーニングができるように、時間配分と実施内容を計画してから行うよう言葉をかける。
- ・プリントで学習を行う際、目とプリントとの適切な距離感を保つことができるように、適切な距離の手本を示す。

4 振り返りを行う。

- ・実施したビジョントレーニングを記入する。
- ・記入後、ロイロノートから教師に送信する。
- ・実施したトレーニングと意識したことを発表する。
- ・目標に対する振り返りを行う

(生徒のロイロノートに配付した振り返りカード)

奈良生物・ゼンマイレーコンデー

	(南) ナルホーランド2019 A-2 (春)輸出解禁にて			ふるる
A-1				
B-1				
C-1				
D-1				
E-1				
F-1				
G-1				
H-1				
I-1				
J-1				
K-1				
L-1				
M-1				
N-1				
O-1				
P-1				
Q-1				
R-1				
S-1				
T-1				
U-1				
V-1				
W-1				
X-1				
Y-1				
Z-1				

5 終わりの挨拶をする。

- ・実施した内容を記入し、振り返ることができるように、振り返りカードの書き方を伝える。
- ・全体で振り返りができるように、ロイロノートの共有機能を使って生徒それぞれの実施内容を電子黒板に提示する。

自分で選択したビジョントレーニングの理由を、説明している。

 $\langle 1-(4), 2-(3), 4-(4), 5-(4)(5) \rangle$

- ・姿勢を正して挨拶ができるように、視線を教師に向けるよう言葉をかける。